

## ケアポート板橋 草野 多恵 (保健師・CM/包括支援センター)

**功 績** コロナ禍において、高齢者ご夫婦間での新型コロナウイルス感染症陽性者（旦那様・80代前半）が発生。同居していた奥様（80代前半）が濃厚接触者としてPCR検査の対象となるも、認知症（構音障害あり）を患っており感染症へのリスクが理解できず検査を拒まれてしまう。その奥様に対して感染症予防に徹し、ご本人宅へ訪問し説得を試みた。結果検査はできなかったが、観察期間のフォローを行い大事に至らなかったその功績。

**推 薦 理 由** 対人援助職として、また看護の知識や保健師としての使命を持ち、感染症対策を徹底したうえで、濃厚接触者への素早い対応及びPCR検査への勧奨に尽力した勇気は職員の鏡であり、手本とすべき行動であると考え、理事長賞へ推薦させていただきます。

### 内 容

---

令和2年8月下旬 0・Mさん（旦那様）が体調不良の為、8月中旬より入院されていた病院にて発熱。PCR検査を受け陽性の判定となったと病院より地域包括支援センターに連絡が入りました。また保健所より同居されていた奥様（80代前半）が濃厚接触者の認定となり、PCR検査対象となったと同時に連絡が入った。

保健所の手配により、奥様に対しての民間救急による移送準備や入院先の確保は既に行われており、電話にて奥様へ受診勧奨するも「私は大丈夫。」と拒否されてしまっている状況。保健所ではこれ以上の介入ができず、包括からのアウトリーチ依頼がありました。

旦那様は舟渡包括担当の利用者さんでありましたが、奥様は介護保険の申請はしておらず、初見の状況でした。保健師である草野は知識・経験及び保健所と確認しながら感染予防としてガウン、フェイスシールド、マスク、グローブを装備し、奥様宅を訪問。会話を交わしながら、状況の説明を単発の単語やご本人の理解度やペースに合わせた環境作りから始め、自宅内にはスムーズに入ることに成功する。

その後、検温や血圧測定には応じてくださるが、保健所からの「濃厚接触者は外に出てはいけない」という説明が奥様には残ってしまっており、「ダメだと言われたので外には出れないんです」と拒まれ、通院は断念となりました。

自宅での健康観察期間2週間、保健所と連携し電話による様子観察を行いました。変化なく無事、観察期間を終えることができております。